

# 山形県連協 NEWS

NO.36 2022年11月20日

<https://ykenrengakudou.tobihiro.jp/>

山形県学童保育連絡協議会

住所：山形市三日町二丁目 1-17

アパートメント Flat-C

TEL:023-674-9782 FAX:023-674-9783

メール：yamagata-kenren@bz04.plala.or.jp

## 第 43 回

## 山形県学童保育研究集会

～子どもの育ちを、保護者・地域とともに考える～11月20日(日)オンラインで開催

11:00～12:30 全体講演『今日の子どもの問題を考える』

13:30～16:00 分科会

今回のテーマは「子どもの育ちを、保護者・地域とともに考える」です。

誰も経験したことがない「感染症」の広がり、行動制限のある生活が長く続いています。

マスクをしたままで遊ぶ、なるべくくっつかないで遊ぶ、こんなことは学童保育の生活では考えられないことでした。制約がある中でも県内の学童保育は、子どもたちの生活を守る努力をしてきました。

2年半以上、学びや体験、人との関わりの機会が少なくなるなど、我慢を強いられる生活を続けてきた子どもたちの育ちを心配する声は日増しに大きくなっています。また、私たちの生活の中ではデジタル活用が飛躍的に進み、子どもたちにとっても学校や家庭でのデジタル機器、インターネットの世界はより身近な存在になりました。コロナ禍で拍車がかかった「ネット世界」の影響が、子どもの育ちにどのように関係していくのかはこれまで以上に気になります。

本研究集会では、今日の子どもの状況を踏まえ、「子どもの育ちにとって必要なことは何か」「子どもにかかわる大人たちが意識しなければならないことは何か」を学びあいましょう

**今回は約350名の参加申し込みを頂いております。  
オンライン開催でみなさんとお会いできることを楽しみにしております。**



**山形県学童保育連絡協議会**のホームページはこちらから👉

- どんな研修があるの？
- 学童ほいくの本って？

などなど、いろんな情報が随時更新されています。  
お気軽にアクセスしてみてくださいね。

<https://ykenrengakudou.tobihiro.jp/>



# 第47回全国学童保育指導員学校 東北会場（オンライン開催）報告

2022年7月10日（日）10:30～16:15

参加者：1,055名（県内：379名）昨年度に引き続き、全国各会場の中で最多人数となりました。

※参加者アンケートより、一部抜粋して紹介します。

## 全体講義「子どもとともに生きるために」

杉田真衣氏（東京都立大学）

トランスジェンダー含め、子どもの姿を受け止めてあげる事の大切さ、そのために大人が（自分が）持つ「子ども像」や「当たり前」の固定的な捉えが、どれだけその子どもを不安にしまうのだろうと思いました。保育の中で、「見えない」子（＝「見えにくい」子）をしっかりと「見ている」子にする大切さ、子どもの心・気持ちへの寄り添い方…様々な事を考えさせられた講義だったと思います。我々大人も、様々な個性・考え方があり、子どもへ寄り添う事の捉えや寄り添い方、人それぞれだと思います。何が正解なのか？を突き詰めるのではなく、自分なりの寄り添い方を見つめていく事、大人たちが多様な寄り添い方を持ったチームとして多様な子ども達と関わりを持つ事。そして何より、その中心には「子どものために」を持ち考え続けられる職員集団である事が大切だと思いました。（指導員）

## 講座2「学童保育の生活づくり

～学童保育の生活とあそび～

岩手県学童保育連絡協議会

学童保育において遊びがどれだけ重要なものなのか、それぞれの学童の環境、子どもたちの状態によってそれだけの遊びの種類があるのだと改めて学びました。横山先生の実践ノートを軸に子どもたちの関わりで遊びの方向性が様々な方向に向くのだと感じました。学童の形態、子ども的人数等は違えど子どもが主体という軸は忘れずこれからも子どもたちにとってより良い遊びの場の提供、発展をしていきたいと思っています。（指導員）

## 講座5「発達障害児への理解と支援

（作業療法の視点から）」

倉澤茂樹氏（福島県立医科大学）

発達障害のメカニズムを脳の機能や構造の視点から説明してもらい、とてもわかりやすく、納得できた。どんなに繰り返しても伝わらなくて怒ってしまったことが思い起こされて、障がいや特性の仕組みを理解できればそれに合った手立てが考えられるということが気付きだった。それをするにしても、知識として理解することだけでなく、一人ひとりをよく見ること理解することが大前提であると改めて感じた。（指導員）

## 講座1「求められる学童保育指導員の役割」

高橋誠氏（全国学童保育連絡協議会）

指導員としての役割について、運営指針をもとに、先生が体験されたエピソードを通して、自分の仕事を思い浮かべながら学ぶことができました。保育現場には、信頼関係とかその場の心地よさとか子どもの言葉の背景とか、目に見えないものだらけですね。子どもがあるべき有様でそのままいられる空間というのも、物理的な安全な環境の整備と同時に、そこにいる人たちで作り上げる時間が相まって作られるものなのだということがわかりました。目まぐるしい毎日ですが、うまくいったこと、いかなかったこと一つひとつを真摯に受け止め、自分なりに視覚化しながら、求められていることに応えられるようになりたいと思います。（指導員）

## 講座3「保護者と指導員

よりよい信頼関係を築くために」

山形県学童保育連絡協議会

お二人のレポートはとても刺激的で参考となりました。保護者の思いを聞く機会は少なく、指導員が日々誠実に保育に向き合ってきたことの積み重ねが、学童保育、指導員の仕事への理解に繋がったのだと感じました。コロナ禍、関係づくりに臆病になっていた気持ちも指導員からのレポートからの言葉ひとつ、ひとつが強く印象に残り、こうありたいと気持ちにスイッチを入れてもらいました。（指導員）

## 講座7「学童保育と指導員をめぐる情勢と課題」

千葉智生氏（全国学童保育連絡協議会）

千葉さん、佐藤さん二人での歴史や実践と制度の解説の立体的な講義で分かりやすかったです。コロナ禍の影響は、これまで抱えてきた学童保育の脆弱さをいっそうあからさまにしたことを思い出しました。一斉休校下での利用自粛要請という、ある種矛盾した呼びかけまで必要だったことは学童が抱える脆弱さを象徴していたように感じます。基調報告からつながることになりますが、学童保育を良くしていくための運動は声を出し続けること、声が出なければ自治体は動かないことなのだと思います。これは歩みとしては遅くて今の子どもには間に合わないというもどかしさがありますが、仲間を地域で広げていくことは大切だと改めて感じました。（保護者）

# 2022県内各連絡協議会の取り組み

コロナ禍の中、研修を継続するために、各地区で工夫していること、新たな取り組みなどをご紹介します。

**山形市** 市連協の組織にリモート係が加わり、オンラインを活用した研修体制が確立され、クラブにいながらもクラブ間での情報・意見交流や、テーマに合った専門的立場の方に講師を依頼し研修を行えるようになりました。また、各クラブのおたよりは毎月データで交換を行い、クラブ内研修に活用できるようにしています。

今後は with コロナの対策・方針・感染状況をみながら小グループで同じ会場での対話を交えての研修を考えています。

**天童市** 今年度の研修は「歴史から学ぶ」、「主体的な学び」、の2つをテーマに掲げています。  
○市連協および各クラブ(29)の成り立ちや課題  
○ゼミ学習（個人の問題意識で掘り下げた研修）を、柱に市連協の学習会を組んでいます。

また、社会保険労務士から「勤務条件の整備」、作業療法士から希望したクラブへの「巡回指導」等、専門家と連携した研修もすすめています。

**鶴岡市** 月1~2回の指導員会の他に実施の研修

- ① 市連協指導員研修会 市連協の学習部会が担当。  
年1回開催 6月に高木直先生の講演「子どもが育つ学童保育の役割」を実施しました。
- ② 市連協新任指導員研修会 年1回  
指導員が講師になり「学童保育の役割と指導員の仕事」をテーマに実施。分散会も行います。
- ③市連協研修部の研修会 年1回コロナ禍で中止

**米沢市** 指導員部が中心となり、1年間の計画を立てています。研修会場をテーマ別に分け、少人数でのグループ研修を行ったり、専門分野の方（防災や感染症対策など）を講師に招いて行ったりしています。実技的な研修（救命救急）は人数制限を設け、毎年実施していて、2年~3年間に1度は受講できるように調整しています。

感染症対策を行いながら、あえて顔を合わせての参加型にしています。

**村山市** 今年もコロナ感染拡大防止の為、リモートで研修を行っています。（現任研修8回、新人研修2回）

10月に全指導員が実践レポートを提出し、12月・1月に実践検討会を予定しています。

また、手作りおやつに取り組み、No.11のレシピ集を作成します。（頒価100円）

※新規取り組み：作業療法士による巡回指導

**東根市** 市連協の研修部が各学童から出された希望をもとに、1年間の研修を計画しています。今年度は外部講師による研修を5回、リモートで実施・計画しています。

全学童でリモート環境が整ったことで、担当者の打合せ等も Zoomで行うようになりました。研修後の振り返り等の記録についても、今年度から紙での保存からデータとして保存しています。

**寒河江市** 寒河江市では、9つの放課後児童クラブが集まり月に1回程度指導員会議を行っています。今年度は、情報交換や市との座談会、経験別研修、外部講師を招いての遊びや危機管理などの研修会を実施・計画中です。状況に応じて代表だけの出席や、中止する場合がありますが、できるだけ集まりを持つようにしています。

**高島町** 町内7クラブ持ち回りで年間8回行っています。今年度は救命救急講習や支援員同士の情報交換などを行っています。コロナ禍ということで集まるのが難しい状況のときは代表のみで情報交換するなどし、お互いの状況を知りより良い保育に向け取り組んでいます。



# 読者(購読者)を増やし もっと学童保育を良くしていこう！！

ほいく誌の魅力を確認し 購読拡大をめざして！

## ◆2022年度 第1回ほいく誌普及拡大担当者会議◆

9月7日(水) 県内各地域のほいく誌担当者の先生方とオンラインにて会議を行いました。県連協の方針『全クラブ購読』『指導員全員購読』『各クラブ月1冊増』を再確認しながら県内の購読状況と各地域の活動を交流し合いました。

交流の中では、「ほいく誌情報交流会を行いほいく誌についての理解を深めた」「今年からほいく誌研修会を開催した」等のお話や、購読数をデータ化している地域もあり、購読率の促進にもつながる活動をしていました。

学童保育関係者が一人でも多くほいく誌を購読してもらえよう、ほいく誌の内容を伝えながら購読拡大に取り組んでいきます。

まだまだ、ほいく誌を知らない関係者がたくさんいます。ぜひみなさんで声をかけ合って購読者を増やし、学童保育への理解を広げより良いものにしていきましょう！



読んで・おしゃべりして ほいく誌も仲間も広げよう！

ほいく誌を読む会『カフェ HOIKUSHI ござ〜れ』

### 🌸ござ〜れの今後の予定

みなさんの参加をお待ちしております！

☆11月16日(水) AM10:00～

11月号『知って・学んで・考える-子どもとインターネット』

★12月17日(土) 夜開催

☆1月18日(水) AM10:00～

2023年1月号『食物アレルギー』

### 12月開催 お知らせ

**12月17日(土) 20:00**

(12月は対面での開催を予定しております。  
詳細は後日お知らせいたします。)

これまで約一年間、ほいく誌の集いを行ってまいりました。夏休みのある8月は夜の開催とし保護者の方の参加もいただき少しずつ変化が見えております。そこで12月も夜の開催を予定しております。保護者の方をはじめ、多くの皆さんと「日本の学童ほいく」誌を通じた情報交流を行いたいと思います。

ほいく誌を通し繋がり、保育を通しての日々の小さな気づきや、みなさんの様々な思いを感じられたらと思っています。

私たちの生活と仕事を支えてくれる本『日本の学童ほいく』を購読してみませんか？

☆指導員の研修にも

活用できる専門誌です☆

### 初の夜開催 カフェ HOIKUSHI ござ〜れ

期日 8月17日(水) 19:00～20:40 Zoom開催  
参加人数 指導員9名 保護者2名  
参加クラブ数 8クラブ・県連協事務局

8月は、夏休みのため日中開催は難しく、常々保護者の方にも参加していただきたいと思っていましたので、初めて夜の開催を実施いたしました。

今回は2名の保護者の方に参加していただきました。8月のテーマは「共に学び共に歩む。みんなで作る『学童保育連絡協議会』」でした。

学童クラブ間において、開所時間や保育料・指導員の勤務体制や処遇など、さまざまな違いが見られる現状があります。子どものことを一番に考え保護者の声を大切に受け止めて、みんなが同じ方向性を持てるよう、市連協としての役割を見つめ直し、統一を図っていかねばならないと感じました。

テーマでの話の他に、それぞれの思いをざっくばらんに意見交換し、保護者の方からは「学童に関わることが億劫になっていたが、学童の現状を知ることができ、このような会はとても貴重で、充実した会でした。」とみなさん満足でした。

これからもこのような機会を増やして、学童保育の運営に役立てていきたいと思っています。

バックナンバーの取り寄せ・購読申し込み

ござ〜れの問い合わせは、  
山形県学童保育連絡協議会へご連絡ください。

TEL: 023(674)9782

mail: [yamagata-kenren@bz04.plala.or.jp](mailto:yamagata-kenren@bz04.plala.or.jp)